

### \* 研究目的

本研究では、甲南大学の理科系の学部生および大学院生が技術英語を効果的に学ぶための方法について検討し、読み書きからプレゼンテーション（聞く・話す）にいたるまでの総合的な語学修得法をまとめることを目的としている。

甲南大学は、平生精神に基づく大学教育を実践しており、世界に通用する人材の輩出に力を入れている。本学では、外国語教育を統括する国際言語文化センターの主導のもと、充実した語学教育が推進されている。理科系の学部4年次では、英文の学術論文が読めるようになることが卒業研究を進める上で重要となっている。自然科学系の大学院修士課程では、英文で学術論文を執筆することが目標とされており、大学院博士課程では、英語でのプレゼンテーションが国際学会での成果発表に不可欠である。このような英語の「読む・書く・聞く・話す」能力を高めることは、学生時代の学びを充実させるために重要である。これらの能力を効果的に高めるための方法について「リメディアル英語」と題して研究する。

### \* 研究チームメンバーと研究課題

渡邊 順司	理工学部・機能分子化学科・教授	研究幹事を担当し、「化学系の学部生、大学院生の英語能力向上の調査研究」を行う。
吉田 桂子	国際言語文化センター・ 特定任期教員	「理系学生に必要な英語能力修得のための教材に関する調査研究」を行う。
KIRK Stanley (カーク スタンレー)	国際言語文化センター・准教授	「ネイティブから見た理系英語の修得に関する調査研究」を行う。